

# みんなのかお



写真上、パソコンで「欠席状況確認表」と感知システムの情報をチェック。写真左下、電子タグを付けた児童。右下、安全見守りマップ作成。

今月は、王子小学校で児童の登下校情報を保護者にメールで知らせる「登下校児童見守りシステム」に取り組んでいる見守りボランティアの皆さんを紹介します。

## 見守りボランティア結成

王子小学校の「登下校児童見守りシステム」は、当初は平成19年度に総務省の指定を受けて行ったモデル事業でした。事業内容は、電子タグと子ども用GPS携帯電話を児童に持たせ登下校情報を保護者に知らせたり、問題発生した場合に関係各所に通報などを行ったりするシステムを作るものです。しかし、モデル期間が終わった平成20年度からは、事業に携わる人が無くなり継続が困難な状況となっていました。今後の運営について保護者アンケートを取ったところ継続の要望が多く、学校と育友会が検討した結果、ボランティアを募ることにしました。この呼びかけに参加した8人が「見守りボランティア」です。今年度も趣旨に賛同してくれる保護者が増え、13人で活動しています。

## ボランティアのおかげで安心できる

現在の「見守りシステム」は、学校内に設置している5本のアンテナの前を、電子タグを持った児童が通過するとシステムが感知し、登下校済み確認メールが自動的に児童の保護者の携帯電話に通知される仕組みです。

私たちの仕事は、システムの通過確認状況をチェックし電子タグを忘れた児童など、通過確認と実際の出欠が合致していない児童の保護者への確認メールの送信です。毎日2人ずつの交代で、各教室を回り児童の出欠を取った「欠席状況確認表」を回収します。その後、見守りルームで確認表をもとにパソコンへの入力作業を行います。この作業が毎朝8時30分から1時間ほどで、午後3時30分からは下校確認を行っています。



私たちがこのボランティアを始めたのは、自分自身も子どもの登下校確認のメールが送信されることによつて安心できましたので、少しでもそのお手伝いをしようと思ったことがきっかけです。携わっ

てみると、こういう多くの人たちのおかげでメールが届いている、安心できているのだということが分かりました。初めは学校の敷居が少し高く感じられ、不安もありました。けれども、学校の様子がよく分かり、子どもたちや先生と楽しく話ができるようになり、ありがたいと思っています。

## ボランティア活動の輪が広がる

見守りボランティアでは、校区の安全見守りマップの作成や校庭の花壇作り、パン作り教室などにも取り組んでいます。これら保護者ボランティア活動は、図書室の整備を行う図書ボランティアの結成にもつながりました。

また、王子小学校では地域ボランティアの「王子子ども見守り隊」が結成されています。中でも地域の3人の方が毎日通学路に立ち、子どもたちが安心して登下校できるように見守ってくれています。これらの取り組みすべてがボランティアで組織していることがすごいと思いますよ。

これらもできる限り学校を地域全体で見守っていききたい、そして、少しでも学校に貢献させてもらえたらと思つて頑張っています。